

各 位

平成 22 年 6 月 7 日
株式会社大広
総務局広報部

離職ママは「腰掛け専業主婦」。 パート・アルバイトでの復職予備軍。

～大広「ライフコース・マーケティング分析レポート」～子育てママ篇～

株式会社大広（社長：高野功）が産学協同で進めている「女性のライフコース研究」※の一環で、このたび、長子3～5歳児の母親にフォーカスした調査を実施し、その結果をレポートにまとめました。

※ 弊社 R&D 局が、2004年より学習院大学経済学部消費者行動研究室（青木幸弘教授）、㈱リサーチ・アンド・ディベロプメント（社長：桑田瑞松）と進めている「多様化・複雑化する女性の消費行動を、人生の選択肢に沿って類型化」する研究。

【調査結果のポイント】

①3～5歳児ママの約7割が離職層。

調査対象とした3～5歳の「子供がいる」というライフステージのママは、68%と多数のママが家事や育児を理由に、かつて持っていた仕事を辞めている「離職層」でした。

②離職層のうち8割近くが復職を希望。

離職層のうち「仕事には就きたくない」という回答は 22%しかおらず、8割近くが復職を希望しています。なお、「今後、3～4年以内に復職したい」という回答は 63%でした。この結果から離職層にとって、現在の専業主婦という状態は一時的な仮の姿であり、彼女たちは腰掛けOLならぬ『腰掛け専業主婦』であると見ることができます。

③希望する復職就業形態は「パート・アルバイト」が約7割。

離職層の希望する就業形態は「パート・アルバイト」が 67%を占めており、「正社員」での復職希望は 13%のみでした。多くの腰掛け専業主婦は「パート・アルバイトでの復職」を希望しています。

【調査結果のまとめ】

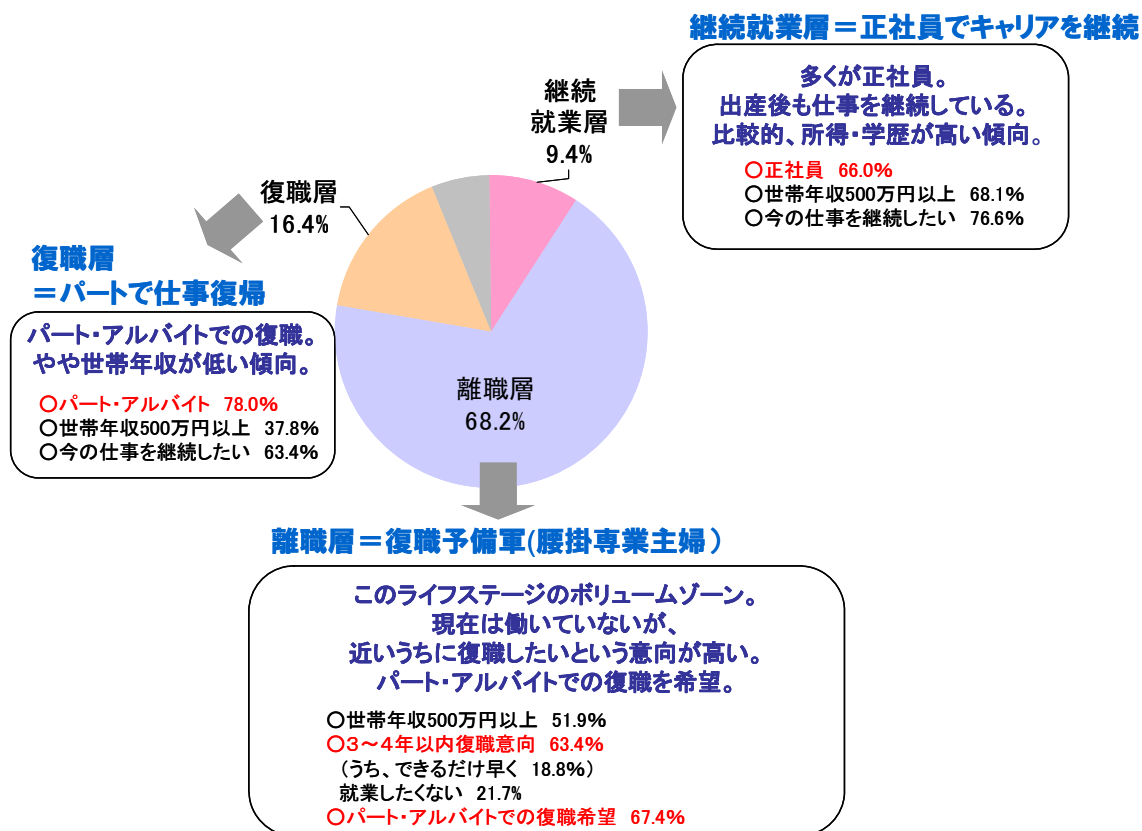
企業や行政が考えるワーキングマザーの就業支援は「正社員での就業継続」を想定するケースが中心ですが、今回の調査からは多数派である離職ママ＝「腰掛け専業主婦」は働き方の自由度が高い「パート・アルバイトでの復職」を希望していることがわかりました。彼女達の求める「育児と両立でき

る、時間的に自由度の高い仕事復帰」を提供していくことが、真のワーキングマザーの就業支援につながると思われる、同時に、復職就業サポートがビジネスチャンスにつながると思われます。

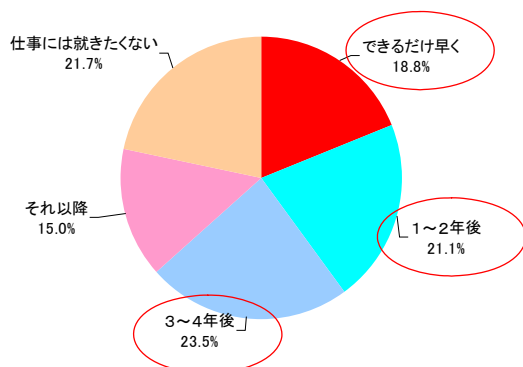
〔調査概要〕

調査対象	全国の長子が3～5歳の子供を持つ母親 500名 → 予備調査を事前に行い対象者を抽出。条件にあった回答者へ本調査への協力を依頼。
調査手法	○インターネット調査で実施（ネット調査会社の調査パネルを利用）
実施時期	○2009年12月実施

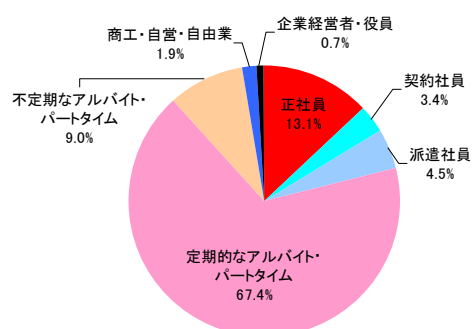
〔調査結果要約〕



離職層の就業意向



就業希望者の就業形態



今回対象とした長子3～5歳の子供がいる母親では、
結婚や出産で仕事を辞めた「**離職層**」が中心。



しかし、彼女たちの多くは「復職したい」と
考えている**復職予備軍**。
職業分類上は「専業主婦」であるが、それは一時の姿。
腰掛OLならぬ『**腰掛け専業主婦**』ともいうべき存在。

※内閣府『男女共同参画白書』でも
「共働きが増加」との調査結果



なお、離職層の多くは、正社員経験があっても
「**パート・アルバイトでの復職**」を考えている。
ワーキングマザーというと、正社員中心の継続就業が
フォーカスされがちだが、ボリュームゾーンである
パート・アルバイトでの復職層にも注目したい。

以 上

この件に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

株式会社大広 総務局広報部 遠藤、長谷川

TEL:03-6364-8601